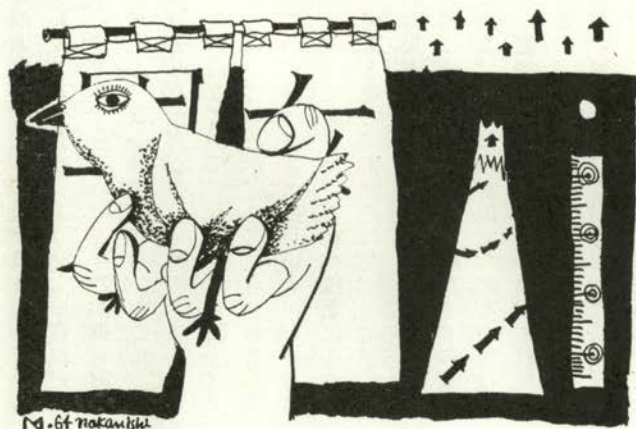


ヨーロッパ「気楽」な旅(その1)

日本人のわざ

古 林 喜 楽

え・中 西 勝



八年まえに私が訪欧したときには、ソニーはまだその名がでていなかった。その後トランヂスターで、ヨーロッパの津々浦々に、ソニーの名がとどいたらしい。ところが今度行ってみたら、早くもソニーの名は珍しくなくなったのだろう、本田、本田でいまヨーロッパはもち切りである。一ヶ月ほどの間、あちこちをぶらつき飛び廻ったが、ソニーは一度も聞かなく、本田は街のアンチヤンまでが知っている。日産や豊田を知らんかといっても、そんなものは知らんというのに、本田だけは知っている。むしろわれわれ日本人の方が、本田に対する認識を新たにしようなことがあった。

本田のスポーツ・カーが、国際競技大会で優勝したとき、ドイツ人たちは、どうせもの真似だろうと高をくくっていたらしい。ところが車を解体してみると、なんと全く独創的であったので、彼等は二度びっくりしたらしいのである。

はるばる異国にきていて、こんな話を聞くとこの上なく嬉しいのであるが、さてつらつら考えてみると、なにかアンバランスらしいものがあるように思えてくるのであった。これが残念にもハンブルグで、現実となって実証された。

日本の国際見本市船の「さくら丸」が七月一日ハンブルグ港に横づけになった。町はさくら丸でもち切りである。ドイツの庶民たちにとっては、日本の数々の製品をぢかに見得るのは、生れて初めてのことなのであるから、これも無理がない。ソニー以来日本の弱電氣は、相当有名になっている。ああそれなのに、それなのに。初日団長の記者会見のときスピーカーがさっぱり用を足さないのである。大勢つめかけたドイツの記者たちは、期待が大きかった丈に、幻滅の悲哀であつたらしい。なんだこんなスピーカーしかつくれないのかということになったらしいのである。勿論これは設営のまずさのことだけに過ぎないのであるが、ドイツ人たちにはそれは通じない。展示場の苦心のあとにはありありと見えて、実に美事であつた。それだけに私たちも、ああそれなのに、それなのにと残念に思つたことであつた。

しかし何だかこれが日本の実態を表現しているように思えてならないのである。妙なところが異常にグツと伸びる。その反面をふりかえつてみると、さっぱりなのである。経済成長率世界一とい

つていたときの日本の経済はこの上なく行き詰つていたのである。東芝・日立・松下のまゝにソニーが有名になり、日産、豊田のまゝに本田が有名になる。

いまヨーロッパには、鶏の雌雄を見わけける技士が百六十人働いている。こればかりは日本人でないといけないらしい。かえりたてのひなが、おすかめすかを、手でさわつて瞬間的に見わけるのである。さすがドイツ人はこれを機械でできるようにしようと研究したらしい。ところが機械をさし込むと、腸をこわしてひなが育たぬらしい。それでドイツ人もかぶとをぬぎ、毎年日本人を招へいしているのである。だからこの道では、日本レコードが、即世界レコードになる。いまのレコードは、百羽の判定が、三分三十一秒という。即ち二秒で、パツ・パツ・パツと見わけるのである。これは手先きが器用でなければ、到底できるものではない。手先きの不器用な欧米人のできることはない。ただアメリカでは、日系二世たちがやっているもので、日本からはあまり行かないらしい。これもたのもしい話である。

しかしながら、トランヂスターといい、スポーツ・カーといい、ひなの雌雄の見わけといい、欧米に進出するのは嬉しい極みだけれども、なんとなく、物足りない気がする。ソニーや本田が日本の名を広めたことは、たしかに功績であるが、いずれも消費財である。これからは生産財の製品でヨーロッパに進出・寄与できないものだろうか。

北欧の銘菓

幣社の登録商標



- ☐ ピラミッドケーキ
- ☐ バウムクーヘン
- ☐ クツキ
- ☐ ムンデット
- ☐ シモン

ユーハイム コンフェクト

本社・工場
熊内店
三宮店

神戸熊内町1(市立美術館東隣)
TEL. 22-2336・1164・1165
神戸三宮生田筋(階上喫茶室)
TEL. 33-7343・0156・4314



モード画
ていぎょう
デザインルームK
TEL 39 / 5291

センスをポイントにしているウェアの店

大丸
前

紳ヤセッ

生田・三宮3.18 TEL 39 / 1851

神戸時代の思い出



「俘虜記」「野火」など、戦後文学を代表する秀作を書いた作家、大岡昇平氏が、8月3日、夏季大学（神戸新聞社、神戸市教育委員会共催）の講演のために神戸にいらっしやったので、早速インタビュー。

大岡さんは、戦時・戦後の一時期をつうじて、神戸に住んでおられたことがあり、それだけに神戸のことにはなかなか詳しい。神戸時代の思い出話を中心に、往時をなつかしむような表情で、大岡さんは話してくださいました。

—先生がはじめて神戸に来られたのはいつ頃だったのでしょうか？

「昭和13年11月1日です。これは、はっきりと憶えている。ちょうど漢口陥落の日で、私はその日東京駅から神戸に出発したのですが、戦勝を祝うチョウチン行列が

ありましてね、それを駅で見たわけです。その時の記憶が残ってるんで、今でも何月何日ということまで憶えているんですよ。」

—その頃はどこにおつとめだったのですか。

『帝国酸素株式会社』です。これはフランス人の経営でした。その翻訳課に勤めました。もともと、後には営業課にまわされ、イヤになっていたところへ、海軍の乗っ取り事件があって、やめちまったんですが、それが昭和18年の6月です。それからしばらくはブラブラしてたんですが、退職金も使い果たしてしまっただんで、その年の11月に川崎重工業株式会社に入社して、艦船工場の資材部に勤めました。ところが、翌年の2月に東京事務所勤務になりましたね、家内と子供を神戸においたまま、単身東京で下宿生活をはじめました。結婚ですか

？ 昭和14年10月です。兵庫区夢野町に住みました。もつものちには灘区の上野通りに移りましたけど……

当時、神戸ってところは、われわれインテリの憧れの町だったんですよ。なんとなくハイカラな感じがしてね神戸のエキゾチックな雰囲気想像して憧れていたんでしょね。マドロスのいるバーなんかに行つて、連中と一緒に酒を飲むのが、なんとなくうれいという気持ちがあったな。『アカデミー』っていうスタンド・バーがあつて、そこは女のいないバーなんだ。そういうところで酒を飲んでちよつと気取つてみたい、そんな気持ちもあつた。『アカデミー』なんて、今もあるのかどうか知りませんが。ああ、そうですか。今もあるんですか……それから神戸とマルセイユをゆき来するメサジュリー・マルティームっていう船がありましたね。フランスへ行く人は、よくこの船を利用したものです。いったん船に乗つてしまうと、だれもがフランス語でしゃべることになつていたし、毎食必ずブドウ酒がつくというんで、私もぜひこの船でフランスへ行つてみたかったんだが、戦争でなにもかもいけなくなつた。」

——他になにか神戸時代で、印象に残っていることはございませんか。

「そうですね。これは、帝国酸素にいた頃の話ですが昼休みが2時間あるんですよ。フランス人というのは昼休みがやたら長いんだ。長い時間をかけて昼食をとる、ところが、こっちはそんな習慣はないから、時間をもてあまして大いに困りましたよ。しょうがないから、元町の商店街をハシからハシまで、ブラブラ散歩したものです。本屋を覗いて立ち読みしたり、玉突きをやったりした。私は、碁も将棋もやり、勝負事はだいたいなんでもやりますが、これはみな昼休みの時間におぼえたもので、考えてみると、私がこれまで勝負事のために空費した時間は相当のものですよ」

——戦後もしばらくはこちらで暮しになったそうですね。

「明石の大久保に家内の里があつたものですから、私が兵隊に引つ張られていた間、家族を預けていたわけですよ。昭和20年12月に復員してから昭和23年まで大久保におりました。セリやたんぼぼを摘んで、その日その日をすごしているというような生活でした。『俘虜記』をその間に書き上げ、小林秀雄さんの主宰していた『創元』に掲載される予定だったのが、米兵に関する記述があるというので、発表は許されなかつたんです。その後東京の郡部方面だけ転入が緩和されたので、23年の1月に上京して、小金井町の友人の家に寄寓しました。」

『酸素』を書いた頃、調査のために久しぶりに神戸に來たんですが、脇浜一带に石油タンクが増えたことには、まったくびっくりしましたね。私のいた頃とくらべると、神戸もずいぶん變つたと思いますね」

——最近「椿姫」の翻訳をなさつたりして、演劇の方にも相当情熱を燃やしていらつしやるようですね。

「いや、あれはほんの偶然ですよ。別にそう深い根拠もないですね。誰が言ひだしたのか知らないけど、どうせ大岡に訳させたら甘いセリフをつけるだろうというんで、私にお鉢がまわつてきたにちがいないんだ。すでに翻訳もありますが、古いものでダメだし、訳すのに相当時間がかかりました。お客さんもわりによく入つて、平均7割の入りが、暑い夏場でそれだけ入れればまず成功だったと考えていいでしょうね」

◆ ◆ ◆

大岡さんは、最近胃を悪くして、やや体がすぐれないと言つておられた。大岡さんが、すみやかにご健康を回復されるように、読者の皆さんとともに、祈りたい気持ちである。

(文責編集部)



ご贈答にどうぞ

直輸入羅紗専門店・紳士服・婦人服

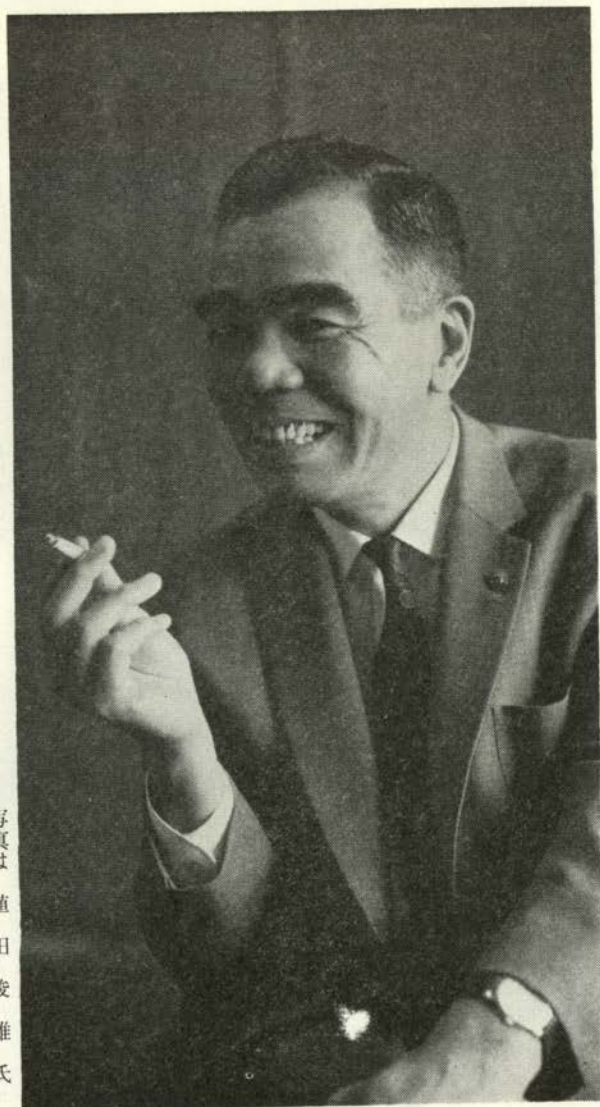
シマキ洋服店

神戸店 生田神社東門筋 ☎37950・8055 ☎2597
 大阪店 北区梅ヶ枝町92ヤノシゲビル1階 (362)9515



呉那條磯
 みよーや

神 戸 大 丸 前
 電話神戸☎三三八八〇九番
 大阪店 阪神百貨店三階
 電話大阪☎五五四八番
 姫路店 やまとやしき百貨店三階
 電話姫路☎一一二二一番
 衣裳部 三宮町三丁目柳筋
 電話☎五一六五番



写真は 植田 俊雄氏

□ 神戸っ子放談 □

神戸高速鉄道の構想

植田 俊雄

神戸高速鉄道株式会社専務取締役

神戸市に地下鉄が生れようとしている。神戸高速鉄道敷設の構想がそれである。現在、神戸市には、阪急電鉄阪神電鉄、山陽電鉄、神戸電鉄の4つの私鉄路線が走っているが、神戸高速鉄道の構想は、これら電鉄会社の市内に点在している各ターミナルを連絡する鉄道を敷設しようというもの。そのための工事が、市内各所で目下着

々と進行中だ。この工事が完成すれば、神戸市内の交通は、いっそう円滑迅速化されるだろう。これは、“神戸っ子”にとって、なかなか耳よりな話。市民の寄せる関心も深いと思われる。そういう意味から、本誌編集部では、この新しい鉄道路線の計画、構想について、より詳しいお話をおききするために、神戸高速鉄道株式会社の

植田俊雄専務取締役、今回の「神戸っ子放談」をお願
いすることにした。

新参神戸っ子

「私は、神戸に住みついてから、まだ6年にしかなら
ないんですよ。だから『神戸っ子』といえるかどうか。
もっとも、神戸に2年住んだら神戸っ子、なんて言う人
もありますから、私も神戸っ子のなかに入れていただい
ていいでしょうね。それに、神戸ははじめて、というわ
けでもないんですよ。昭和11年に8カ月ほど兵庫県庁に
勤めていたことがあるんです。その年の秋に、高尾山の
麓の家から観艦式の光景を見たことを憶えていますね。

生れたのは大阪で、今の大東市が郷里です。中学も高
校も大阪なんで、もともと私は関西人なんです。昭和
8年に東大の法科を出て、すぐに内務省に入りました。
経済企画庁の初代開発部長を勤めた頃のことだ印象に残
っています。琵琶湖開発の仕事にタッチしたのを初め
私なりに関西のために尽してきたと自負しています。

建設省を最後に、役人生活をやめ昭和33年の7月に神
戸にまいりました。同年10月に現在の会社が創立され、
それからずっと神戸で暮しているわけです。」

完成まであと4年

「今、私どもの進めている神戸高速鉄道計画の概要か
らご説明いたします。」

ご存知のように、現在神戸市には、東から阪急、阪神
西から山陽、北から神戸電鉄の各私鉄が乗り入れている
わけですね。ところが、これがみなバラバラで、例えば
山陽の終点である兵庫駅から三宮に出ようと思えば、わ
ざわざ国鉄に乗り換えなくてはならないし、神戸電鉄の
湊川駅で降りた場合には、市電か市バスに乗り継ぐしか
ないわけで、これでは非常に不便ですよ。そこで私ども

の会社では、山陽西代駅と阪急神戸・阪神元町の両ター
ミナル駅を結ぶ東西線と、神戸電鉄線を湊川から新開地
にまで延長する南北線とをつくり、市内の鉄道路線の連
絡と統一を図ろうと考えているわけです。当初の計画で
は湊川と神戸駅を結ぶ南北線をつくるつもりでいたので
すが、これにはややムリがあつて今年の5月に新開地に
変更した次第です。これで延長約7kmちょっとなんで
すよ。それが実質的には28kmくらいの働きをするので
すから、この高速鉄道の持つ意義は大きいと思いますね
着工したのが2年前の8月です。大開通りの工事はすで
に終わりました。昭和43年の4月には、なんとしても全線
開通にもっていきたいと思っていますね。

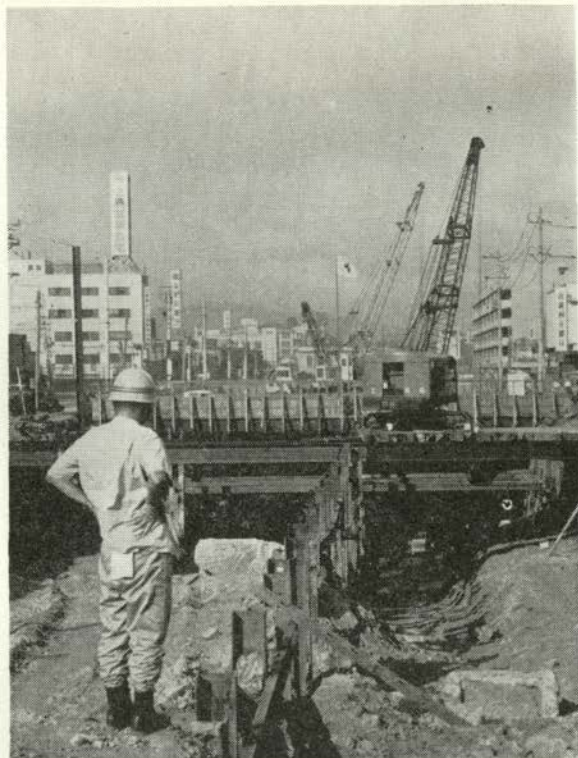
地下鉄をひとつの会社でつくって経営しようという構
想は、全国的にも初めてのケースです。他は市営がほと
んどで、東京都の場合は、公団という法人でやっている
わけですから、私どもの事業は極めてユニークなもので
す。もうひとつの特長は、私どもの会社では、線路はつ
くるけれども、電車は持たないということ、これも全
国に類例がありませんね」

線路貸します

「経営方式をどうするか、ということですか？ 今も
申し上げましたように、私どもの会社は車両は一切保有
しないという方針です。そこで、線路と駅をつくって、そ
こに各私鉄の電車に乗り入れていただく。そうして、私
どもとしては、線路使用料を払っていただく。いわば、
一種の線路貸業ということになりますかね（笑）」

また、高速鉄道の新設による、各私鉄の増収を見込ん
でいますから、それもそれぞれの会社で一定の割合で受
けもつていただくつもりです。ともかく、線路使用料の
収益で企業体を経営してゆくというケースは、世界中ど
こを探してもみつからないでしょうね。

運賃はどうなるか、というご質問ですか。そうですね



兵庫区有馬道の神戸高速鉄道現場

知らないのですが、私の知っている限りではわりに安定しているような気がします。それは長所でもあるし、短所でもあるでしょう。安定ということは、悪くいえば活気に欠けるということにもなりますから。

神戸から港を除いたら、なんにも残らないことは確かなので、名神高速道路が全通すれば、荷物の輸送が相当ラクになるはずだから、神戸港はさらに活況を呈してくるんじゃないか、そういう予想は立てられましようね。

しかし、神戸は人口百万都市くらいのところで適当だなんて思っていたらダメだと思えますね。また、ベッド・タウンでいいわけでもない。やはり産業の発展が第一で、それによってこそ大人口も養えるわけです。

その意味から、六甲山の裏側の開発ということが考えられてもいいんじゃないでしょうか。平地が全然ないわけではないのですから。工業用水をどうするか、という問題はありますが、水のいらぬ工業を狙えばいいと思う。そのためには、なんといっても道路をつくることです。六甲山の裏側に大きな道路を一本つくって、大阪・神戸・姫路をつなぐようにすれば、六甲山の裏といえども工業を發展させることは可能だと思えます。

名古屋が、最近目立って發展していて、その都市としての活力は大阪をしのぐほどですが、結局それは、名古屋が思い切った都市計画を実行したからだと思えますね。神戸も名古屋の伸展ぶりを参考に、立地整備、区画整理などを、もっと大胆に、思い切って実行していったらいいですね」

(文責編集部)

それは私どもの会社ではタッチしないという建て前になってるんです。それぞれの私鉄会社で、適当な運賃を決めてくださいというふうに考えています。(笑)

まあ、新規の鉄道でもあるし、国鉄なみに安くというわけにはいかないでしょうが。

神戸高速鉄道が完成すれば、繁栄が西へ移るんじゃないかと言う人もありますが、そんなことは決めてかかる必要はないと思います。特定の一個所をターミナルにしようというわけではないのですし、考え方によっては、すべてがターミナルになるともいえるし、逆にいえば、全然ターミナルのない鉄道というふうにもいえる。結局この鉄道をどう生かすかということは、事業をする人の努力次第ということではないでしょうか」

裏六甲の開発を！

「私は、神戸の経済界のことについてはそう詳しくは

経済ポケット ジャーナル



禁煙運動を呼びかける 川重 砂野社長

兵庫県経営者協会（会長 砂野川崎重工社長）がこのほど経営者と国民の健康を守るための禁煙運動を推進することになった。音頭取りは砂野社長で、「私は七月二十四日から禁煙に踏切った。まだ同志は堀田神戸鉄所社長など数少ないが、県経協として禁煙運動を推進したい。動機は米英でタバコが肺ガンの原因といわれているためで、これから大いに同志を募りたい。初めから永久に禁煙というのでは参加者もいないだろうから、まず一年間禁煙しよう」と呼びかけるつもりだ。私はビース党で、味とともに、あの色とデザインは天下一品だったと思うけど、ね」と決意は固いようだが、ビースへの愛着も大きいようだ。さて、一年先の回答を待ちましょう。

川崎汽船新会社を設立

海運業界は集約化に伴ない神戸の船会社も懸命の対

策を考えているが、川崎汽船では集荷部門の合理化をいっそう進めるため八月一日付けで川崎汽船外航定期貨物株式会社を設立、三日オリエンタルホテルに県下の政、財界の名士多数を招いて披露パーティを開いた。この新会社は川崎汽船の東京貨物部、横浜、名古屋、大阪、神戸各支店が取り扱っていた外定航期航路関係の貨物の集荷業務とこれに伴なう一切の業務を引き継いで出発したもので、社長には服部元三川汽社長副社長には曾野勇二氏が就任した。

また、最近の神戸経済界で目立っているのは中国銀行、但馬銀行、広島銀行など地方銀行の神戸進出だ。広瀬日銀神戸支店長はこれらの動きについて「金融機関の引き締めは徐々に浸透しており、企業もいよいよ手元資金の取り崩しを始めた。地方銀行が神戸に支店を出すのは神戸で預金を吸収しようというのではなく、資金を神戸で活用しよう」と

いうことで、神戸にとって利益になる。企業活動が広域化しているに伴ってこれからのこういう動きは続くだろう」といっている。

猛暑に頑張る神戸JC

神戸青年会議所は猛暑に負けまいとハッスル。八月十七日から十八日にかけて会員五十人が六甲山ホテルに泊り込んで青年経営者のためのセミナーを開いた。経営コンサルタントの米山武氏が講師で、「人の生産性をもっと高めるには」がテーマ。人集め、人使いはいつの時代にも大企業でも中小企業でも頭を使う共通の課題だ。

また九月六日にはYMC Aで社会活動委員会が中心になってJCBパザールを開いた。同日の構成はのみの市（JCとOAA提供の寄附品）、出店、陳列品、ゲームコーナー、アトラクション、抽せん（ミス神戸、ミス・ユニバース出席）、ラ

神戸銀行で家庭教育シリーズ第一部「こどもとものにー幼児編ー」を発売

神戸銀行では、かねてより神戸大学高橋省己教授に依頼し作成の準備をすすめていた「こどもとともに」と題する小冊子をこのほど福岡から札幌にいたる一四〇余カ店の当銀行支店の窓口で配布することとなった。これは家庭における教育としつけの勘定で書かれた二点に焦点をあわせて書かれたもので、第一部の幼児編が完成した。たて15%よこ10%のポケット版であるが、教育熱心なママさん達の愛読書となるだろう。この後、ひきつづいて、小学生、中学生、高校生を対象としてシリーズで発刊される予定である。

* KOBE オフィスレディ *



石丸美枝子さん (21才)

川崎車輻KK秘書課勤務
明るい笑顔で応対する石丸さんは、しゃっきりとした感じのお嬢さん。スポーツが好きだという須磨育ちの神戸っ子である。

結婚式と披露宴

去る九月一日、オリエンタルホテルの新館の営業が、始まった。

その当日、ホテルの十一階のスカイレストランで、関西テレビをキーステーションに「テレビ結婚式」が全国32局ネットで中継放送された。

おなじみの徳川夢声氏の名司会で結ばれた許明哲氏と陳湘玲さんの二人は中国の人。

国際色豊かな雰囲気の中で誕生した新夫妻は勿論、新館で挙げられた結婚式の第一号である。

ここ数年、ホテルでの挙式は、全国的に増加の傾向をたどっている。

畳の上で、長い時間すわってというような、古いきりぎりすからぬけれど、挙式披露宴の様式もすっ

●結婚式



●結婚式披露



●茶席



かり、近代風になってきたといえる。

ホテルの三階には式場、控室、化粧室、写場、それに茶室まで、揃っている。

式に臨むに先だって、ひとまず新郎新婦、列席者が茶室に入り裏千家流のお点前で、抹茶をのんで気持を整える。

そして、おらかな雅楽に迎えられる。入場する。

宮内庁雅楽と並び称せられる程權威をもつ伊勢神宮の六人の俗人の演奏を、朝日放送で特別録音を許されたものである。

勿論この奏楽はオリエンタルホテルにだけ使用を許可されている。

太古のような奏楽のムードに浸

りながら、一世一度の契りをかためることになるのである。

このホテルでは式場の名を「高砂」といい、真紅のカーペットが独特の雰囲気をかもしだしている。

ちなみに挙式料は挙式、初穂料供物、着付室料など一切を含め一六〇〇〇円。

また、披露宴に使われる宴会場は二階のロビーを中心に大小六つの部屋があり、フルコースディナーで六〇〇〇人、立食形式で一、〇〇〇人まで、何人でも人数に応じての披露宴ができる。

披露宴の費用は、一人当たり二、〇〇〇円から、五、〇〇〇円で、食事、飲物、卓上盛花、献立表、煙草など一切を世話してくれる。

披露宴の演出や新婚旅行の相談にも応じてくれるし、一年目の結婚記念日に、二人をディナーに招待するというおまけまでついている。

ホテルの製菓課では、ウェディングケーキの研究に永年努めているとのことで、花の香りを添えて、ウェディングケーキを製作してくれる。

たくさん列席者の注目をあびて一喜びに胸ふるわせながらのウェディングケーキのナイフ入れは二人にとって最も印象に残るひとときでもある。(カット/松岡寛)



美しさを創る...

アスター・ニュートン

トア・ロード 331818

🎵 **KOBE ヤマハ ニュース**



▶結婚シーズンに、ムード音楽のプレゼントはいかが！

写真左は「今宵は愛と甘き夢」ダニー・ウィルトンのハーモニカ、ヘンリー・ジェローム楽団の甘いスタンダード12曲(¥1800)右は「グッドナイトスイートハート」モートン・グルード指揮の管弦楽団の 奏で11曲(¥1800)

▶秋 ヴァイオリンの季節

クラシックを楽しむ方々に、弦楽器を舶来品のものからスタンダードなものまで豊富に整えました。ぜひお立ちください。
写真左 ロート 4 R
¥62,000 (独)
右 カール・ヘフナー 206
¥61,000 (独)



▶語学に強くなりましょう！

オリンピックを迎えて語学の勉強はますます盛んです。このリングフォーンをご利用になって、ぜひ、各国の言葉をマスター下さい。
写真左より
米語 ¥16,000 右は
ロシア語 ¥18,000



神戸もとまち

日本楽器

元町2丁目 TEL 331514

るぼるたーじゅ・コウベ

②

神戸の造船所

松原新一

巨大な音が耳をつんざく。造船工場のなかに足を踏み入れたとたん、まず音の大きさにどきもをぬかれた。広大な工場全体をゆさぶるような轟々の音。クレーンがうなりを生じて空間を走る。まるで化けもののよう。鋼材を打つハンマーの金属音が腹にしみる。鋼材を積んで、ゆるやかに走るトラレー。工場のあちこちで溶接の火花が散る。私の名も知らぬ機械とエンジンの音が、たえま

なく響いてくる。ところ狭しと積みおかれた鋼材の山の間をぬって、ヘルメットをかぶった作業員がゆき来している。たれの作業服も、ほこりと油でまっくろだ。濁りよどんなような空気。

これら、騒音と騒音のいりまじった工場の一点に立っているにもかかわらず、なにか爽快な気分になってくるから妙だ。あたり一帯に、びーんと張りつめた緊張



船の修理や新造船に日夜活躍している川崎重工、造船所の大ドック

感のようなものがたちこめているせいだろうか。たえずなにかが動いている。船を造るという、ただひとつの目的にむかって。人の目を楽しませるようなどんな装飾もここにはない。余分なもの的一切を棄てて、ただ必要物によってのみ構成されたこの光景は、一種の抽象的な美しさにみちている。冷たい爽快さのようなものが感じられる。たぶん工場とは、つねにこういうものにちがいない。

鋼材置場がある。広い。大きさ・種類・用途別にわけられた鋼材が、整然と並べられている。黙々と鋼材のさびおとしに

はげむ作業員たち。夏の日を浴びて、彼らの顔に汗が光る。

加工工場。鋼材置場で、検査とさびおとしのすんだ鋼材（鋼板と型钢）が、ここへ運びこまれる。うす暗い屋内工場に、切断機の放つ火花が、一瞬明るみをつくりだす。鋼板と型钢が、いくつかの小部分に切断されてゆく。鋼材を曲げたり、孔をあけたりする作業もこの領分。加工された鋼材が、ここでいくつかの小ブロックに組み立てられてゆく。

定盤（じょうばん）と船台がある。隣りあわせに位置したこの二つの工事現場は、造船所のなかで、もっとも活気にあふれた場所だ。加工され、組み立てられた小ブロックを、定盤に搬入してゆくトラレーとクレイントラック。集められた小ブロックと小ブロックが、ここでさらに大きくつなぎあわされてゆく。鉄の溶接技術の進歩した今日、船はこうしたブロック方式で建造されている。

海に面して、わずかに傾斜した船台。建造途中のタンカーがどっしりと腰をおろしている。頭上をL型クレーンが轟音をひびかせて動く。船体の周囲に組み立てられた板木の足場に立って、溶接の火花を散らす作業員たち。地上にしゃがみこんで、組み立て作業にいそむ人々。数え切れないほどの労働者たちが、それぞれの責務を負って仕事にとりくんでいる。ムダ口をきくものはい人もいない。これらの人々の、孜々としてつづける労働の集積によって、はじめて一隻の船ができていくのである。



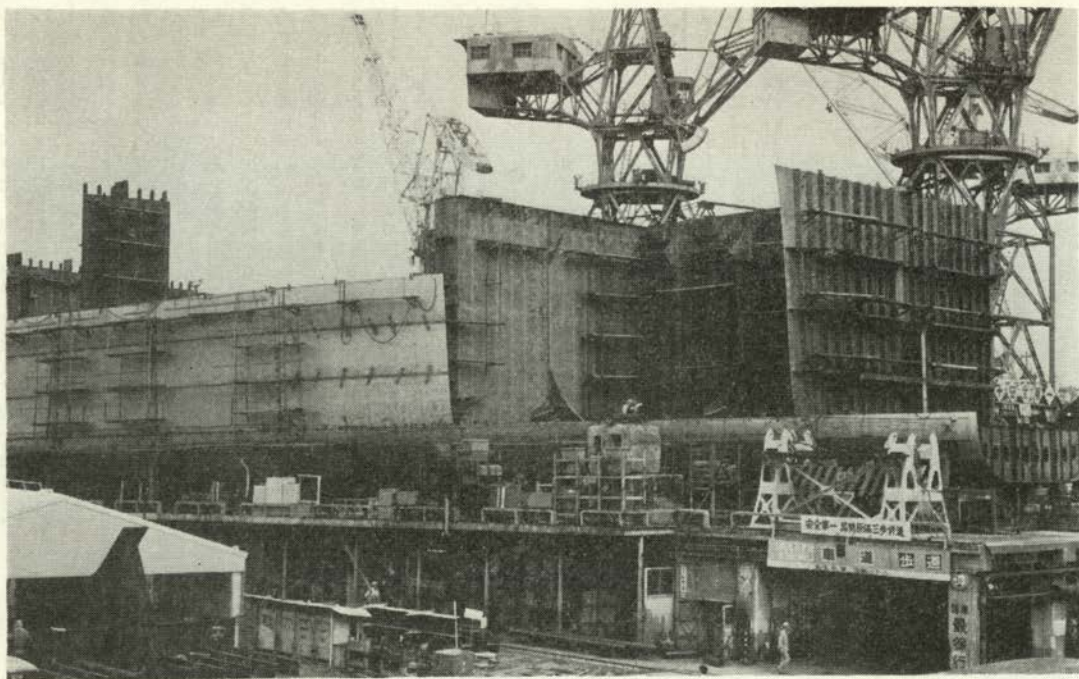
わが国の造船業は、今日、世界のナンバーワンの地位にのしあがるまでに成長している。昨年など、世界の新造船の約半分を、日本がうけとっているほどだ。だが、もとよりこのような実力は、一朝一夕にできあがったものではない。わが国造船業界は、敗戦後の占領政策によ

って、ほとんどどん底に突きおとされていた。当時のボーレー報告に明らかなように、日本の海運界は、国際航路から完全にしめだしを受けようとしていたし、造船業のお抱え主だった海軍の消滅は、すなわち、造船業の衰退を意味するものであった。ここで戦後の造船業の歴史を、こと細かに説いている余裕はないが、今はただ、昭和23年6月、三井造船と播摩造船（現在石川島播摩重工業）が、ノルウェー向けのキャッチャーボートを受注したのが、わが国における輸出船第一号となり、以後着々と船舶輸出が伸展していった事実を指摘すれば足りる。それにしても、その目ざましい発展を支えてきた根本のちからはなんだろうか。川崎重工の企画課長小笠原広吉氏は、次のように語っている。

「ひとつは、技術の優秀性でしょうね。日本の造船エンジニアの層の厚さは、世界に類例のないものだし、大学と会社、あるいは会社と会社が、オープンマインドで技術革新について研究し、協力しあってきた。こういう造船業界の開放性が、造船技術の進歩のために大いに役立っていますね。第二は、戦争に負けたといっても、設備そのものは残っていたこと。第三は、労働者が勤勉であること。それから、特に当社の場合は、旧海軍によって培われた伝統が、大きな意味を持っているように思えますね。だいたい造船上の要点は、①いつ引き渡すか②品質③船価という、三点につきるといっていいのですが、それを当社は、海軍によって徹底的に叩きこまれた戦前のことですが、当社の機械工場部長が、約束の期日に船の引き渡しができなかったというので、責任をとって割腹自殺をした事件があります。いわば、武人的精神とでも申しましょうか。当社が、戦後の日本の造船界の発展に、大きく貢献してきたのも、そういう精神的なバックボーンが脈々と生きていたからだと思いますね」

つづけて同氏は、日本の造船界のライバルについて、「まあ、進水量からいえば、日本、イギリス、ドイツが世界のビッグスリーですが、利潤の実績からいうと、

三菱重工第一船台の工事現場。巨大なタンカーを建造中だ。撮影／緒方しげを



日本とスエーデンの争いでしょね。これは、たとえていえば、大鵬と柏戸の勝負みたいなもので、イギリスなどはせいぜい若狭父くらいのものですよ。スエーデンは隣国のノルウェー——これは世界で有数の海運国ですが——とタッグマッチを組んでるから強いが、強いといったって今では土俵際に押されてツマ先きで立ってるようなものでしてね」

すぐにもスエーデンを、土俵下に突きだしてくれようといわんばかり。自信満々である。では、日本の造船業の将来に、不安はないのだろうか。その点を重満通弥氏（三菱重工神戸造船所所長附）にたずねてみた。

「なんといっても、労働力の不足がいちばん大きな不安ですね。なにしろ造船というのは重労働ですから、人手を集めるのに困るんですよ。高賃金を出せばいいのかもしれませんが、それをカバーするには、高能率をあげる方法を確立しなくてはならないので、それがいちばんの問題ですね」

その方法の具体策を、重満氏は明示しなかったが、小笠原氏の意見は、次のようにかなり具体的だ。

「一個所の工場に、多くの設備がはいりこみすぎていますね。10万坪のなかで、あらゆる船を造るのは、もうムリな時代に来ています。高能率をあげるためには、だからどうしても製品の専門化という方向へ進むほかないわけです。現在の新造船の中心は、なんといってもタンカーですが、タンカーの専門工場をつくる、そしてタンカーと他の船をわけて建造する、そういう方法がいちばんいいのではないでしようか」

岡山県の水島に、川重の新工場が創設され

ようとしているのは、周知のとおりだが、そこが大型タンカー建造の専門工場になることは確実だ。三菱重工にしても、事情はおそらく同じではなからうか。重満氏も、15万トン以上の超大型の船は、長崎造船所で建造されることになろう、と語っている。

しかし、もし、そういうふうになれば、神戸の造船界は、将来ウント淋しくなりはしないだろうか。神戸で造る船は、みんな小ものばかり、という事態がおこらぬともかぎらない。いくら修繕船が多いといっても、船の修繕でボロ儲けするわけにもいくまい。お互いに、「お隣りさん」と呼びあい、ポートタワーの工事を上下半分ずつにわけてそれぞれがうけおったというほどの、熾烈なライバル意識に燃えている川重と三菱が、さて、これから、神戸を舞台にどんな競争ぶりをみせるか。

◆ ◆ ◆

「どういうたかて、戦争が起らなあきまへん。なんぼ大型のタンカーを造っているいうても、戦争の時ほど景気はええことおませんな。造船は、軍艦を造ってこそ、ほんまの儲けになるんだすがな。スエズ・ブームいうてありましたやろ。もう8年ほど前ですわ。あの時、見てごらんはなれ。こころ、川重や三菱のえらいさんたちでよう賑わいましたもん。よその国の戦争でボロ儲けしはったんです。今はもうとんとあきませんな」

これは、花隈の一粒亭のベテランねえさんの言い分である。どこまで信用していいかわからぬが、一面の真実をうがっているようにも思える。

第一次世界大戦の頃。大正4年（戦争開始は同3年）の日本の船舶建造量は4万9000総トン。翌年は急にふえて14万5000総トン。同8年には、なんと61万1000総トンにまで上昇。戦争中の船腹不足と、船に対する需要の増大が、このような造船好況を生み出したのだといつてよからう。だが、戦争が終ったとたんに、それもべしやんこになってしまった。同11年の建造量をみ

れば、わずかに8万3000総トンにすぎない。廃業の憂き目をみた造船所が多く出たのもこの頃。これはほんの一例だが、軍需景気と造船好況との密接なつながりは、ほとんど疑いをいれない。

現在、防衛庁の発注をうけて、潜水艦を造っているのは神戸だけである。旧海軍との結合が、こういう形でも生きているようだ。防衛庁が国防省に昇格すれば、軍備拡張は必至であり、その折りはまた造船ブームがやってくるかもしれない。そのことを、三菱の一作業員の前で口走ったら、「そんなこと、自分ではなにも意識していません。ただ与えられた仕事をするだけで、会社がどんな船を造ってるかということには、自分に関係ないですから」という、割り切った返事がはねかえってきた。

分りもしない未来のことを、アレコレ気にするのは、たぶん閑人の悪癖であって、将来、神戸でどれだけ戦争用の船が造られることになろうと、そんなこと、気にしないでいいのかもしれない。それが気になるのは、造船好況の余得にあずかろうと狙っている、ある種の人々だけであろう。

◆ ◆ ◆

尾張名古屋が城でもつのなら、たぶん神戸は「船」でもつ。そう言っても過言ではないほど、造船業が神戸につくしてきた功績は大きい。

だが、今日、造船業を斜陽産業とみるむきもないわけではない。陸上部門へのいちじるしい進出（鉄塔・橋梁などの鉄構製品、建設機械等が造船会社で大量に生産されている）をみれば、そういう臆説が出てくるのも、よくわかるような気がする。造船業に占める船と陸の比重が、今大きく転換してゆきつつあるわけだ。

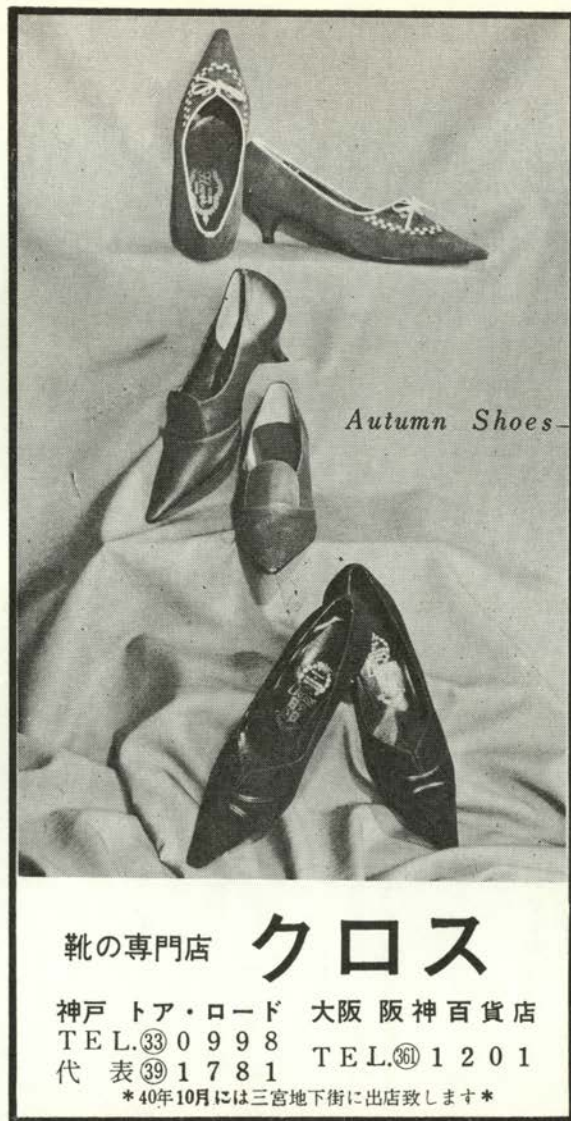
日本のなかの造船王国として、自他ともに認めてきた神戸も、造船業の今後の動向如何によって、大きく変容してゆくかもしれない。未来は、たれにも予測はつくまいが、ともあれ神戸の造船界が曲り角に来ていることはたしかなようだ。



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ

紳士服飾・大丸前 39 3 9 0 0
 婦人服飾・大丸前 39 4 6 2 4
 センダ 街 39 4 6 2 4
 新橋 39 4 6 2 1



Autumn Shoes

靴の専門店 **クロス**

神戸 トア・ロード 大阪 阪神百貨店
 TEL. 33 0 9 9 8 TEL. 36 1 2 0 1
 代 表 39 1 7 8 1

40年10月には三宮地下街に出店致します

★神戸っ子クロヨンをゆく

黒部ダム天狗句会



黒部ダムにおおわれた霧

グループの一行は、大町ルートからクロヨン・ダム。インクラインに乗り、大阪の第一生命ビルがすっぽりはいるといふ、地下発電所を見学、黒部軌道で宇奈月に出る、黒部ダムの全コースを見て、宇奈月に一泊した。

この黒部行では車中で、あらかじめ打合せていたとおり、気軽な吟行も併せてやることになっていた。宇奈月の旅館にくつろいだ一行から早速に俳句が集められた。

選は全員が投票。選者の票は増点というかたちで進められた。選者は富田碎花（詩人）陳舜臣（作家）赤尾兜子（俳人）の三人と決り、参加の人達の作品が集められ句会に移る。なかなかの力作がある。それでは黒部ダム吟行の句会風景を紹介しよう。

参加メンバーは、選者の三人のほかに新谷秀雄（彫刻家）津高和一（画家）青木重雄（神戸新聞）木村憲吾（神戸百店会）小泉康夫（本誌編集）。選に参加したメンバーは西村雅司（写真家）浮田侑（阪東調帯技師）瑛稔（関西電力）の四人。

賑やかな句会である。みんな浴衣がけでなかには鉢巻スタイルも見られる。それでは、入選順に話題を追って見よう。

とらわれのエネルギーがみするダムの底

陳舜臣

新谷「これは、地底の発電機感じがよく出たよ」

津高「とらわれのエネルギーがよく利いた。流石だ」

神戸の芸術家・文化人グループが関西電力に招かれてクロヨン（黒部川第四ダム）を見学。クロヨン・ダムは最近、観光コースに開放されたため、大変な人気をあつめている。

黒部川は、北アルプスの鷲羽岳から、立山、剣岳を主峰とする立山連峰と、鹿島槍岳、白馬岳などの巨峰がある、後立山連峰がかみあう、大峡谷を流れ、滝のような急流は、人跡未踏の秘峡といわれ、中部山岳国立公園になっている。

この黒部川上流の大峡谷をクロヨン・ダムが美しいアーチを描いて川をせきとめ、黒部湖が出来ている。

大自然のなかに傲然とそびえるクロヨン・ダムは、また、人工美の極限をみせていた。

なかなかの人氣をあつめて第一位、天に入る。

岩貫く隧道杭木死者の影灯す

赤尾 兜子

木村「凄惨な世紀の工事の犠牲者を想い浮かべるような句ですね。やっぱり本格の俳句ですよ」

富田の「ただ一人の俳人の句が二位になるところが天狗俳句の面目だよ。(笑) 僕もこの句にいられたがね」

隧道のなかを潜った実感が第二位、地に入る。

湧きおこる霧が撫で斬る岩の肌

陳 舜臣

新谷「また、陳さんの句ですか、なかなかうまいものですね。雨と霧に包まれたクロヨンには圧倒されたね」

富田「なかなかいい句が出て来ますよ。驚ろきましたね」

青木「作家は、うまいこと文字を使うからね。僕のはまだ出て来んかな」(爆笑)



宇奈月の旅館で浴衣がけで吟行する面々。写真は左より陳舜臣氏、陳環瑩氏、富田碎花氏、青木重雄氏、津高一氏、新谷秀雄氏、木村憲吾氏、赤尾兜子氏

屹立する岩壁をつなぐダム風景で第三位、人になる。

ハッパ消えて野獣遠のくダムの青

津高一

赤尾「これは豪快な工事が思われて、いい句です」

西村「いい俳句が出て、なかなかの激戦ですね」六票を確得して、堂々と第四位佳作にはいる。

青木「入選圏内には絶対はいると思っとたがな」(笑)

あとは順位に並べて見よう。

はしる霧峻拒する黒部ダム

小泉 康夫

埋蔵量ダム満々と発情す

津高 和一

クロヨン・ダムにて

バツチャムブランドをつつむ霧雨友も消え

青木 重雄

水あげのまぐろのような娘 夜の夏山列車

富田 碎花

洞窟の地下空間近代のうなり聞く

新谷 秀雄

涼しさも千メートルの落差かな

陳 舜臣

黒部湖を背景に夏の雨みな美人

富田 碎花

立と剣ひとつに絞る黒部ダム

木村 憲吾

なじめぬ保護帽つらね真夏のクロヨンへ

赤尾 兜子

トマト汁庭をよぎれる霧青き

青木 重雄

黒四の急流せきて世は明けく

新谷 秀雄

黒部ダム雲から返る蟬の声

木村 憲吾

山峽に両脚長しダムサイド

津高 和一

ダム満ちて雲海黒部水碧し

新谷 秀雄

霧雨クロヨン男女の傘は弱々し

赤尾 兜子

はるけきや隧道抜けて黒部かな

木村 憲吾

すでに木曾短夜の汽車に夢むすびあえす

富田 碎花

宇奈月に蟬しぐれきく黒部峽

小泉 康夫

句会の終りに赤尾兜子氏は「とにかく流石にみんな芸術活動をされている一流人だけあって、この句会水準を抜いている」といってみんな大いに満足して、天狗句会らしく自慢が飛びあったものである。